



平成一八年度 地域国際化協会職員海外研修について

(財)自治体国際化協会支援協力部地域支援課

地域国際化協会職員海外研修は、地域の国際交流を推進する中核的民間交流組織である地域国際化協会連絡協議会が主催している研修です。

今年度はオーストラリアを訪問し、日本の地域における外国人住民に対する支援施策の推進に資するよう、オーストラリアの移民や永住権取得者に対する施策・活動について学びました。今回は八協会八人の参加があり、約一週間でしたが共に学び、親睦を深めることができました。

近年、日本においては、日本語によるコミュニケーションが十分にできない外国人住民を主要な対象とした施策が求められております。それは、必ずしもオーストラリアのように移民を対象とした施策を展開しようとしているわけではありません。しかしながら、両者には共通のテーマも多しと考えられ、活動内容、手法、関係団体との連携、さらに財源確保の問題などにおいて学ぶべき点が多くあるのではないかと

考えています。

今回は、(財)自治体国際化協会シドニー事務所に、訪問団体の選定・調整をお願いしました。研修生にいろいろな実態を知っていただくこと、

行政機関と民間団体、活動内容も多様にアレンジしていただきました。また、緊急時の体制も含め、充実した研修を実施することができたのではないかと思えます。

今後参加するきっかけとしていただけるよう、今回は参加者のレポートを掲載しました。なお、訪問団体

等の詳しい報告は、平成一八年度地域国際化協会職員海外研修報告書がありますので、(財)自治体国際化協会地域支援課へお問い合わせください。

平成18年度地域国際化協会職員海外研修日程表

	月日	始	終		交通機関等
1日目	1/28 (日)	22:00	10:55	成田空港→キングスフォードスミス空港	飛行機
2日目	1/29 (月)	11:00	12:00	キングスフォードスミス空港→シドニー市内 (財)自治体国際化協会 シドニー事務所	専用バス
		午後		ユニバーサルデザイン視察→ホテル	
3日目	1/30 (火)	10:00	11:00	在シドニー日本総領事館	専用バス
		午後		キャンベラへ移動(途中昼食) キャンベラ市内 ユニバーサルデザイン等視察	
4日目	1/31 (水)	9:00	11:00	Canberra Institute of Technology, Adult Migrant English Program	専用バス
		14:00	16:00	National Office, Department of Immigration and Citizenship シドニーへ移動	
5日目	2/1 (木)	10:00	12:00	The Smith Family, Inner West Community Settlement Service Office	専用バス
		14:00	16:00	Holroyd City Council <市長表敬含む>	専用バス
6日目	2/2 (金)	9:30	11:30	Beverly Hills Intensive English Centre	
		14:00	16:00	NSW Multicultural Health Communication Service	
7日目	2/3 (土)	22:05		キングスフォードスミス空港移動	飛行機
8日目	2/4 (日)	6:10		成田空港着・解散	飛行機

多文化共生の縮図― オーストラリア・シドニー

(財)福井県国際交流協会 榎 美保

シドニーの中心街を歩く。聞こえてくる言葉は英語、中国語、韓国語、スペイン語……。スーパーマーケットでレジに並ぶ。インド人、ベトナム人、中国人……。レジごとに異なる人種の従業員。よくよく観察していると、異人種間では英語で会話、出身が同じ者同士は母国語で会話をしている。まさに、これが多文化共生。

多文化共生施策の先進地視察は長年の希望であった。国際交流協会に勤務しているとはいえ、多様な文化を背景に持つ人々を抱えるほかの国がどんな施策を行っているのかを実際に見たことはなく、自分たちが実施している事業に対し、自己満足に陥りがちなのではないかとという危惧があったので、オーストラリアの移民に対する手厚い支援をこの目で確かめに行くことができると思うと胸が高鳴った。――にもかかわらず、事前に送付されてきた資料がなかなか読み進まず、勉強不足のまま出発の日を迎えてしまうのではないかと焦りと不安、六歳と三歳の子どもを置いていく淋しきで、正直、出発前は涙が出そうであった。だがしかし、ひとたび彼の地に足を踏み入れると、全身で感じる多文化共生の空気に圧倒される自分がそこにいた。

視察先では、主に移民政策の「明」の部分を見た。オーストラリアでは、すべて

の移民に対し政府の施策として英語教育、定住化支援を行っている。いずれはそれらの移民がオーストラリアに貢献してくれるということを前提とした国策とこの国の人たちのボランテニア精神の成せる業である。皆、口を揃えて「この国ではボランテニア活動は特別なことではない。普通のことだ」と言う。

しかし、一方で、成功した移民（特にアジア系）に対する低所得地元民の妬みからくる差別も存在するというところを見聞きする。いずれ国民主義的、排他的ムードが高まって、それが過激な運動につながる可能性があるのではないか。そう考えると、オーストラリア政府の移民政策の負の側面、「暗」の部分をもっと聞いてみたかったと思う。

オーストラリアと日本では土壌も事情も異なる。しかし、どちらも海を隔ててほかの国との交易、交流を図ってきた国であり、東アジアに位置しながら、積極的に西欧文化を受け入れてきたという点で共通している。第二次世界大戦後、オーストラリアは人口減少は国力の低下につながるという考えから、国力維持のために大量移民導入を実施した。以後、同化政策、統合政策、多文化主義政策、コーポレート多元主義（多文化を認めるだけでなく、維持を援助する）と紆余曲折を経て今に至っている。日本は近い将来、労働人口が減少するため多数の外国人を受け入れざるを得なくな

ると言われている。オーストラリアがたどった道をこれから日本がたどることになるのではないだろうか。

われわれの到着直前、オーストラリアでは、ハワード首相によって内閣改造が行われ、「移民・多文化省」が「移民・市民省」に名称変更となった。これは、出身がどこかということとは関係なく、すべての市民が一市民であるということの意味している。他方、わが国では、「多文化共生」施策に取り組み始めたばかりである。日本で「多文化共生」という言葉がなくなるのはいつであろうか。その時まで、われわれがオーストラリアから学ぶことは尽きない。これからもオーストラリアから目が離せない。

出会い

―海外研修のもう一つの意義―

(財)徳島県国際交流協会 宮城 千穂

今回、地域国際化協会職員海外研修に参加できたことは自分にとっても非常に有益であったと思う。申込みをした時には研修に行くことに対してただ大きな期待を抱いていたが、出発日が近づ



↑510時間の無料の英語授業を提供しているAMEP (成人向け英語教育プログラム)

くにつれて不安が大きくなった。このような大きな研修に参加して、自分には訪問先で見たこと、聞いた話をきちんと吸収して今後の仕事に生かせるだけの能力があるのだろうかとの思いが募り、それを抱えたままの出発となってしまった。そしてオーストラリアに到着すると、不安は拭いきれないものの、研修先を訪問し、施設を見学して担当者のお話を聞くことに精一杯になっていた。

たくさんの研修先を訪れ、さまざまな施策についての話を聞く中で最も印象に残ったことがある。現在国民の四人に一人は外国生まれというオーストラリアであるが、移民は受け入れながらもそれぞれの母国の文化もすべて丸ごと受け入れるのではなく、柱となるオーストラリア的価値観を理解してもらい、それを中心に国としてのまとまりを築いていくことも大切だということである。世界中から移民を受け入れながらも、やはり共通の価値観の基に成立する国家であるための方法を模索している過程にオーストラリアは現在あるのかもしれない。

移民の出身国の文化を尊重すること、国としての一つの価値観の理解を促進することはなかなか両立が困難なことだと思われる。日本もこれから移民を受け入れていく中で同じ状況になることが十分に予測されるが、オーストラリアが歩んでいく方向に注目し続けていきたい。

訪問先で学んだ移民施策に対する感想はほかにもたくさんあり過ぎて書ききれないので、研修を通して出会った人々への思いを書かせていただきたい。

人との出会いも訪問先の各機関で施策を勉強できたことと同じくらい、この研修に参加できたことの大きな収穫だった。貴重なお時間を割いて私たちを迎えてくださった訪問先の方々はもちろん、研修を通してお会いできたすべての方に感謝の気持ちを表したい。ホテルやバスの手配をしてくださり、オーストラリアのことを詳しく解説してくださったガイドさん。ご自身がオーストラリアに永住する日本人として移民の立場からいろいろとお話をしてくださった。また、永住の経緯から現在に至る半生記も興味深く聞かせていただいた。

研修先ですつとお世話になった通訳の方。



↑行政についての教育プログラムを移民向けに実施しているHolroyd市を訪問

高い語学力と素晴らしい通訳技術、長時間通訳をする集中力をお持ちだけれど穏やかな人柄で謙虚な態度を崩さない。本当に尊敬に値する方だと思

う。

同じ研修生として八日間を共に過ごした地域国際化協会職員の皆様。いろいろな期待と不安を共有しながら協力し合って研修期間を乗り切ることができた。日本中に散らばって場所は違っても同じ仕事をする者同士、たくさんのよい刺激を受けられたことは幸せだった。

そして最後に、この海外研修をすべてコーディネートしてくださった(財)自治体国際化協会の方々。準備段階から私たちには計り知れないご苦労があったことと思う。実際に研修に入ってから、さまざまな事態に確に対応しながら私たち研修生には細やかな心配りをしてくださった。安心して研修に臨ませていただけただけでなく、その責任感を持ったお仕事ぶりを見て多くを学ぶことができた。

海外研修に参加して、さまざまな機関を訪問することでオーストラリアの移民施策について知ることができた。そしてシドニーとキャンベラの街やそこを歩いている人、立ち寄った店で働く一般の人を見てきた。たくさんの素晴らしい方にも出会えた。出発前には不安も感じたが、今ではオーストラリアで貴重な経験ができたことをとても嬉しく思っている。参加できたことは本当に幸運であった。

これからも海外研修が続いていき、全国の地域国際化協会職員の方にこの素晴らしい機会が与えられるように願っている。